

Yuki Nemoto

INTERNATIONAL
GT OPEN

Rd.4 Imola

2021.07.23~2021.07.25



BORDERLESS LLC.

#F INCELL Katsushika 8-29-14 Okudo, Katsushika-ku, Tokyo-to 124-0022 Japan

■ Introduction

7月23～25日、根本悠生が参戦する2021年シーズンの国際GTオープン第4戦が、イタリアのイモラサーキットで開催された。

ランボルギーニの母国イタリアで開催される第4戦。ヴィンツェンツォ・ソスピリ・レーシング (VSR) のファクトリーのあるフォルリから約40kmに位置するイモラサーキットはチームにとってのホームコースであり、根本にとっては2017年のランボルギーニ・スーパートロフェオ・ワールドファイナルのレース2を制した思い出深い場所だ。ポイントランキング3位につける根本とバプティスト・ムーランの19号車ランボルギーニ・ウラカン GT3 Evoは、5秒のハンデストップを抱えて決勝レース1を迎える。



■ Free Practice

今大会ではポルシェカレラカップ・イタリアが併催イベントとして開催されているため、国際GTオープンでのカップカークラスの開催はなく、エントリーはGT3マシンが10台と今季これまでに最も少ない。

19号車はFP1で1分44秒075を記録して8番手、FP2は1分43秒779を記録して7番手につけたが、いずれもトップからは2秒近く遅れる。オーバー気味のセットアップであった19号車は予選を前にアンダー寄りのセットに変更を決定。なお、2回行われたフリー走行ではともにAudi Sport ItaliaのオーディR8 GT3 LMSがトップタイムを記録した。



■ Qualify1 : 6th

決勝レース1のスターティンググリッドを決する公式予選Q1は、気温28度、路面温度36度、湿度57%のドライコンディションのなか、24日午前に行われた。

プロアマクラスの47号車メルセデス AMG GT3のプロドライバー、ロリス・スピネリが1分39秒511を記録してポールポジションを獲得。今回もメルセデスが強いポテンシャルを見せる。なお、47号車は今大会にプロドライバーのスピネリ1名でエントリー、それに伴い47号車もプロクラスへ参戦する。

根本がアタッカーを務めた19号車ランボルギーニ・ウラカンGT3 Evoは、計測4周目にこれまでの自己ベストを大きく上回る1分40秒446を記録するも、Q1ではライバル勢も大幅タイムアップを実現。19号車は決勝レース1を6番グリッドからスタートすることとなった。



■ Race1 : 5th

24日午後、70分間の決勝レース1は快晴の下、気温35度、路面温度53度、湿度30%というコンディションの中、スタートを迎えた。

6番グリッドスタートの根本は1周目のタンブレロ進入でReno Racingの11号車ホンダNSX GT3 EVOをアウト側からオーバーテイクし、5番手に浮上。

トップの47号車AMGがギャップを大きく広げる中、19号車根本は4台が連なる2番手争いの隊列の最後尾につき、4番手を走るアウディをかわす機会を探る。

これまで1分42~43秒というペースで安定していた根本だったが、突如ステアリングラックにトラブルが発生し、13周目からは1分43~45秒とペースが落ちる。これにより2番手争いの隊列からは大きく離される結果となった。

根本は24周目終わりにピットイン。後半を担当するムーランも1分43~44秒台で周回を重ねるが5位を守ることが精一杯であった。

レースは47号車AMGがポール・トゥ・ウインを達成。2位にはVSRの63号車ランボルギーニが、3位にはLechner Racingの77号車ポルシェが続いた。

5位でチェッカーを受けた19号車は決勝レース2をハンデ0で迎えることとなる。



■ Qualify2 : 7th

決勝レース2のスターティンググリッドを決する公式予選Q2は、レース1翌日の25日午前に、気温30度、路面温度33度、湿度39%というのなか行われた。

1分40秒121を記録してポールポジションを手にしたのはVSRのチームメイト、63号車のフレデリック・シャンドルフ。

19号車ランボルギーニ・ウラカンGT3 Evoは、根本のパートナー、ムーランがアタックを担当。前日からセットアップにも大きな変更を加えた19号車であったが、ベストタイムは1分41秒939に終わり、7番手でセッションを終えることとなった。



■ Race2 : 4th

25日午後、60分間の決勝レース2は気温31度、路面温度41度、湿度36%というコンディションの中、スタートを迎えた。事前の天候予報では、わずかに雨が降ると予想されるも、スタートの時点では強い日差しが照りつける。

序盤、3番手争いを展開していた47号車AMGと21号車アウディがトサコーナーで接触。このアクシデントにより47号車AMGは最終結果に5秒加算のペナルティが課せられることとなった。

スタートから7番手のポジションをキープしていた19号車だったが、トップからは1周2秒遅れとなる1分44~45秒台で周回を重ねる。そのため、ピットレーンオープンとなった14周目に真っ先にピットイン。ムーランから根本にドライバー交代を実施する。

根本は交代早々から1分42秒台を記録すると17周目には1分41秒429を記録。その翌周にはレース中2番目に速いタイムとなった1分40秒958を記録し、上位勢を猛追する。

そしてInception Racingの72号車マクラーレン720S GT3の背後につくと、タンブレロで勢いよくオーバーテイクを決めて19号車は4番手に浮上する。

この時点で3番手47号車とは9秒近いギャップがあったが、47号車は5秒加算ペナルティが確定している。根本が47号車とのギャップを5秒以内まで縮めることができれば表彰台を獲得できるという状況となった。

根本は47号車を0.2秒ずつ上回るペースで周回を重ねるも、60分のレースはそのままチェッカー。タイム差は9秒弱あったため、ポジションは変わらず、第4戦レース2を4位で終えることとなった。

ポイントランキングで3位をキープする結果とはなったが、チーム、そして根本にとって次戦に向けて大きな収穫があるレースウィークとなった。

インターナショナルGTオープンの次戦は9月12日にオーストリアで開催される『第5戦レッドブルリンク』となるが、根本悠生とバプティスト・ムーラン、そしてVSRは7月29日~8月1日にベルギーのスパ・フランコルシャン・サーキットで開催される『2021年 トタルエナジーズ・スパ24時間レース』に挑む。



■ 根本悠生 コメント

「今週末は過去に無い難しいものとなりました。持ち込みのセットアップがうまく機能せず、まずはベースセットを立て直すところから始めました」

「ここイモラは縁石の攻略が非常に大事になりますが、GT3での攻略に少し時間がかかりました。レース1では不運にもメカニカルトラブルが発生してしまいゴールまでクルマを運ぶのがやっとの状態でしたが、レース2に向けては大胆なセット変更が功を奏し、非常に力強いパフォーマンスを発揮することができました」

「残念ながらレース序盤の失速もありリザルトは残すことができませんでしたが、チーム一丸となってペースを取り戻すことが出来たのは非常に良かったです」

「貴重なポイントを重ねることができ、また次戦に向けて引き続き0ハンディキャップを維持出来ましたので、初優勝に向けて引き続き頑張ります」



Sponsor/Partner

oppo



ThunderCOMMA



本件に関するお問い合わせは
合同会社ボーダーレス
info@borderless-motorsports.comまで

